当院における脱水の取り組み

〇五十嵐　大二
医療法人清仁会　水無瀬病院　リハビリテーション部　作業療法科

【はじめに】
当院は、一般急性期病棟、回復期病棟、地域包括ケア病棟を有する 117 床の地域密着型病院である。一般急性期病棟にて急性期治療終了後に、自宅退院困難症例は回復期病棟、地域包括ケア病棟へ転棟。リハビリテーションを実施するうえで回復期病棟、地域包括ケア病棟で脱水を起因とする意識消失のインシデント件数を多数認めた。脱水の取り組みを行った経過を報告する。
【対象】
対象は入院 1 週間経過、80 歳以上の症例。
【方法】
食事自己摂取の可否（ＦＩＭ食事 5 点以上）・認知症の有無で分類を行った。食事自己摂取可・認知症なしの症例は対象外。食事自己摂取可・認知症ありは飲水チェック実施。飲水量が足りていれば対象外。飲水量が不足していれば飲水促しを実施。食事自己摂取不可の症例は飲水促しを実施。
【結果】
80 歳以上の症例で、入院 1 週間以上必要とする症例の大半は飲水促しに該当する症例であった。上記取り組みを実施した結果、リハビリ実施時の脱水を起因とするインシデント件数減少。退院時の血液データ改善した症例が増加。回復期病棟・地域包括ケア病棟における補液実施が減少した。
【考察】
上記活動を通じて病棟スタッフ・リハビリスタッフが飲水に対する意識が向上したと考える。長期期間の入院を要する症例は栄養だけでなく飲水面での配慮も必要でると考える。